

第 209^期 株主通信

平成28年4月1日→平成29年3月31日

 KURABO



株主の皆様へ



取締役社長 藤田 晴哉

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。

さて、当社グループの第209期連結会計年度（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）の概況につきまして、ご報告申しあげます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、中国の景気減速やその他の新興国の成長鈍化、英国のEU離脱決定、米国の政権交代その他世界的な情勢不安はあったものの、企業収益は高水準を保ち、雇用・所得環境も改善傾向で推移するなど、景気は総じて緩やかな回復を続けました。

このような環境下において当社グループは、平成28年4月よりスタートした新中期経営計画「Advance '18」の基本方針である「収益拡大に向けた事業変革」のもと、将来市場を見据えたマーケット志向型事業への転換を図り、高付加価値かつ高収益ビジネスの追求、技術革新と新規事業創出などに注力しました。その一環として、「徳島バイオマス発電所」が平成28年7月に竣工し、売電事業を開始しました。

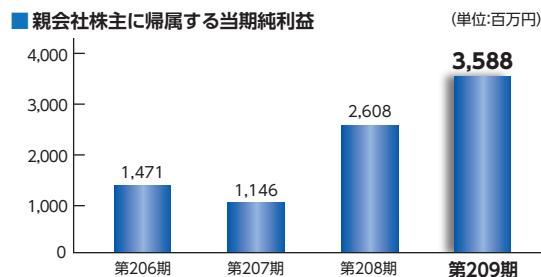
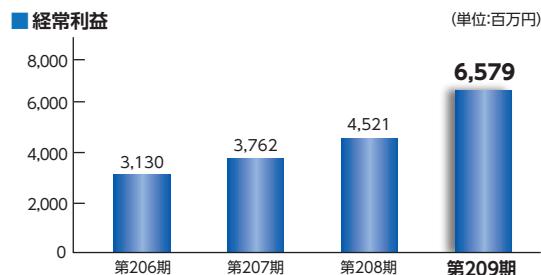
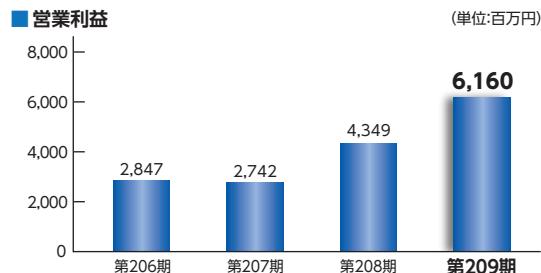
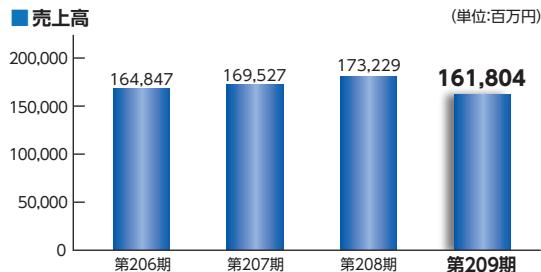
この結果、当連結会計年度の業績につきましては、売上高は1,618億円（前年同期比6.6%減）、営業利益は61億6千万円（同41.7%増）、経常利益は65億7千万円（同45.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は35億8千万円（同37.6%増）となりました。

今後のわが国の経済情勢につきましては、雇用・所得の改善や経済対策の効果などにより、景気は緩やかながら回復基調をたどるものと予想されますが、世界は不確実性の時代に入ったともいわれ、世界経済の動向には十分留意が必要であります。

このような経営環境のもと、当社グループは、環境変化に対応し企業価値向上を図るため、引き続き将来市場を見据えたマーケット志向型事業への転換に注力し、高付加価値かつ高収益ビジネスを追求するとともに、コーポレートガバナンスの強化や法令遵守の徹底など、倫理ある事業活動の推進にも努めてまいります。

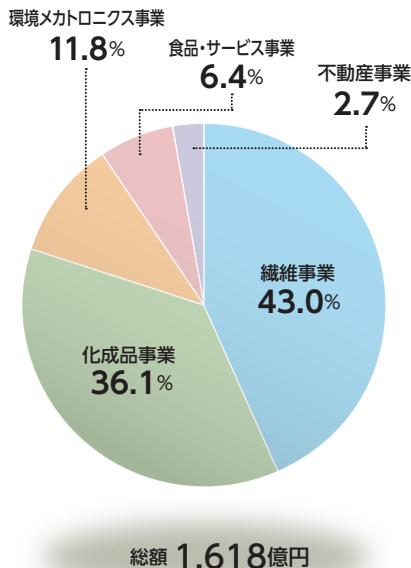
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成 29 年 6 月



当社グループの事業概況

事業セグメント別売上高構成比率



※事業セグメント変更について

新中期経営計画「Advance '18」のスタートにあわせて、従来7つあった事業セグメントの整理・統合を行い、「繊維事業」「化成品事業」「環境メカトロニクス事業」「食品・サービス事業」「不動産事業」の5つの事業セグメントに変更しております。また、従来「繊維事業」に所属していた不織布、補強ネット分野については、製品市場が共通している「化成品事業」に移管しております。

なお、当連結会計年度の売上高等の前年同期比較については、前連結会計年度の数値を変更後のセグメント区分に組み替えて比較しております。

繊維事業



原系分野は、主力販売先への販売が堅調に推移し、ユニフォーム分野も公共事業の需要が堅調に推移して回復基調となりました。

カジュアル分野は、国内販売が順調に推移したものの、輸出が期前半の円高の影響を受け、収益面できびしい状況が続きました。

海外子会社におきましては、円高に伴う円換算額の目減りにより売上高が減少しました。利益面では、東南アジアは一部に改善が見られましたが、ブラジルは経済情勢の低迷などにより低調でした。

この結果、不採算事業撤退等の影響もあり、売上高は695億円(前年同期比13.6%減)、営業利益は9億7千万円(同30.5%増)となりました。

繊維事業

- 綿、合繊、その他素材の繊維製品(糸、織物、編物および二次製品)の製造・販売
- 綿、合繊織編物の染色整理加工

化成品事業



自動車分野では、内装材向け軟質ウレタンフォームは輸出向けが好調に推移し、フィルター向け不織布なども順調でした。

機能フィルム分野は、文具向け製品などが順調に推移しました。また、高性能樹脂加工品は、半導体製造向けが好調でした。

住宅建材分野は、繊維補強資材やエクステリア商品などが順調でした。

この結果、売上高は584億円(前年同期比2.3%増)、営業利益は21億4千万円(同207.8%増)となりました。

化成品事業

- ポリウレタンフォーム、合成木材、無機建材、機能性フィルム、精密ろ過関連製品、高性能エンブラ製品、不織布および補強ネットの製造・加工・販売

環境メカトロニクス事業



エレクトロニクス分野は、大判カラーコピーシステムは低調に推移しましたが、半導体向け成分計や飲料容器の検査装置が順調でした。

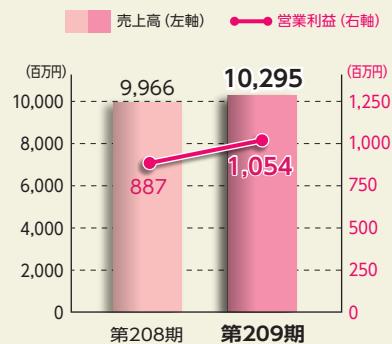
エンジニアリング分野は、売電事業を開始しましたが、工事費用の増加により利益面できびしい状況が続きました。バイオメディカル分野は、海外向けの核酸自動分離装置が順調でした。工作機械分野は、国内外の設備投資の不振を受け、主力の横中ぐりフライス盤が低調でした。

この結果、売上高は191億円(前年同期比9.9%減)、営業利益は4億7千万円(同35.3%減)となりました。

環境メカトロニクス事業

- エレクトロニクス関連製品の製造・販売・保守
- 環境・エネルギー関連の各種プラント等の設計・製作・施工・販売、バイオマス発電事業
- バイオ関連製品の製造・販売
- 工作機械等の製造・販売

食品・サービス事業



食品分野は、スープ市場向けおよび製菓向け製品が好調に推移し、即席めん具材も堅調でした。ホテル分野は、宿泊部門および物販部門が堅調に推移しました。

この結果、売上高は102億円(前年同期比3.3%増)、営業利益は10億5千万円(同18.8%増)となりました。

なお、平成28年11月、食品・サービス事業の業容拡大を目的として、当社創業時の工場をホテルに活用した倉敷アイビースクエアの大規模リニューアルを決定しました。

食品・サービス事業

- フリーズドライ食品の製造・販売
- ホテル、自動車教習所等の経営ほか

不動産事業



賃貸事業の推進に注力した結果、売上高は43億円(前年同期比0.0%増)、営業利益は30億6千万円(同1.5%減)となりました。

不動産事業

- 不動産の賃貸

ホームページのご案内

>>> <http://www.kurabo.co.jp>

当社ホームページでは、会社案内やニュースリリースのほか、IR情報をお届けするため、「株主・投資家情報」のサイトを開設しています。

当社の開示資料を閲覧できる「IR資料室」、IR活動の日程をまとめた「IRカレンダー」など、株主の皆様のお役に立つ情報を提供しています。



連結財務諸表 (要旨)

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)	科目	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成29年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産	88,951	84,964	流動負債	62,306	52,154
固定資産	92,597	96,564	固定負債	30,483	33,129
有形固定資産	54,316	51,744	負債合計	92,790	85,284
無形固定資産	797	668	純資産の部		
投資その他の資産	37,484	44,151	株主資本	84,959	87,360
資産合計	181,549	181,529	その他の包括利益累計額	△3	5,601
			非支配株主持分	3,802	3,282
			純資産合計	88,759	96,244
			負債純資産合計	181,549	181,529

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (平成27年4月1日～ 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年4月1日～ 平成29年3月31日)
売上高	173,229	161,804
売上原価	146,816	134,372
売上総利益	26,413	27,431
販売費及び一般管理費	22,064	21,270
営業利益	4,349	6,160
営業外収益	1,458	1,472
営業外費用	1,286	1,053
経常利益	4,521	6,579
特別利益	262	105
特別損失	417	615
税金等調整前当期純利益	4,365	6,069
法人税等	1,608	2,330
当期純利益	2,757	3,739
非支配株主に帰属する当期純利益	148	150
親会社株主に帰属する当期純利益	2,608	3,588

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	前連結会計年度 (平成27年4月1日～ 平成28年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年4月1日～ 平成29年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,496	10,760
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,810	△3,701
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,110	△8,942
現金及び現金同等物に係る換算差額	△521	△1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,053	△1,885
現金及び現金同等物の期首残高	17,196	18,372
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	121	—
現金及び現金同等物の期末残高	18,372	16,486

繊維事業部

産学連携で「熱中症リスク管理システム & スマート衣料」の共同開発を開始

繊維事業部は、熱中症予防対策に特化したリスク管理システムおよびスマート衣料“Smartfit（スマートフィット）”の開発ならびに実証実験を開始しました。



近年、特に屋外での作業が多い建設業・運送業などでは熱中症予防対策の重要性が高まっています。今回開発するシステムは、センサを付けたスマート衣料“スマートフィット”で取得した作業者の心拍数などの生体情報を、気象情報や緊急搬送情報と融合して解析し、リアルタイムで熱中症リスクを評価・管理する独自のシステムです。従来の熱中症リスク管理では難しかった、作業者ごとに異なる作業条件や健康状態などを踏まえた熱中症のリスク管理を行うことができます。開発は、国立大学法人大阪大学、国立大学法人信州大学、一般財団法人日本気象協会との共同で行います。

本年5月から200人規模のモニターでの実証実験を行っており、平成30年度には建設・運送業界に向けての実用化を、その後は東京オリンピックなど屋外の大規模イベントなどでも活用できるシステムの開発を目指します。

化成事業部

高強度繊維と熱可塑性樹脂を活用した成形・補強用繊維基材“クラパワーシート”を開発



クラパワーシート

化成事業部は、炭素繊維などの高強度繊維とパウダー状の熱可塑性樹脂を組み合わせた成形・補強用繊維基材“クラパワーシート”を開発しました。

“クラパワーシート”は、炭素繊維やアラミド繊維を独自技術によって一方向に開織し、その表裏にパウダー状の熱可塑性樹脂を均一に付着させて

シート化した薄くて軽い繊維基材です。プラスチックや金属などさまざまな材料と複合することで、材料の強度を高めることができます。また、繊維が一方向に揃っているため、ユーザーはこのシートを必要な方向に積層し、加熱、加圧することで、求める強度を持つ成形物に仕上げることができます。

今後、自動車をはじめ、電子機器、航空宇宙、インフラ、スポーツ、レジャーなどさまざまな分野に提案を行い、早期の事業化を目指してまいります。



航空宇宙分野にも提案

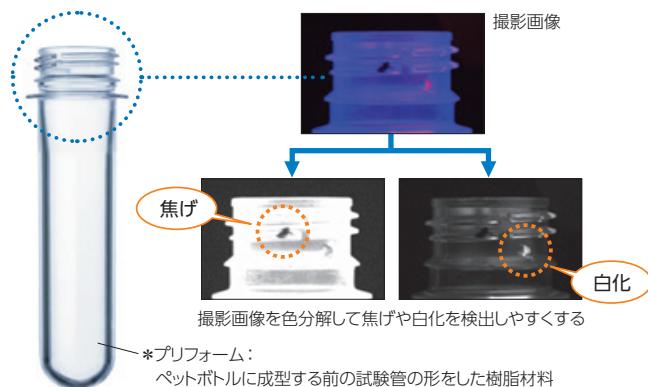
環境メカトロニクス事業部(エレクトロニクス分野)

ペットボトル プリフォーム向けの 検査装置を販売

環境メカトロニクス事業部は、各種の飲料缶検査装置を開発・販売しており、缶の汚れや傷の検査において、お客様から高い評価を受けています。近年、ペットボトルの生産量が増加傾向にあるため、缶検査装置で培った技術をベースにペットボトルやその原形となるプリフォームの検査装置を開発し、本年3月、第1弾として飲料メーカーにプリフォーム用検査装置を販売しました。当社のプリフォーム用検査装置は、他社の装置に比べ、①カラー画像での検査が可能のため、焦げや白化などの検出精度が高い、②小型で既設生産ラインへの設置が容易、③短期間で設置ができるため、製造現場の負担が少

ないことが特長です。

また、飲料用だけでなく、調味料や日用品に使用されている樹脂容器などの検査の引き合いも増えており、飲料業界以外への拡販が期待できます。



環境メカトロニクス事業部(バイオメディカル分野)

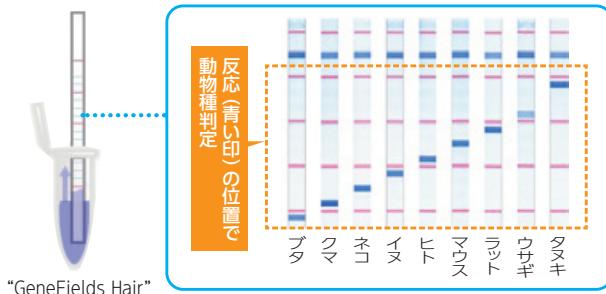
動物種毛髪判定用の 遺伝子検査キットを販売開始

環境メカトロニクス事業部は、平成27年から東洋製罐グループホールディングス(株)と共同開発・販売を行っている遺伝子検査キット“GeneFields(ジーン・フィールド)”シリーズの新製品として、異物混入対策が不可欠となる食品業界向けに、9種類の動物の毛を簡単に判定できる毛髪検査キット“ジーン・フィールド・ヘア”を昨年12月1日より販売開始しました。

“ジーン・フィールド・ヘア”は、1cm程度の毛髪サンプルから



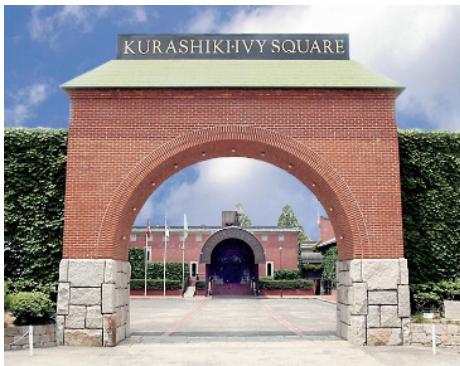
ヒト、イヌ、ネコ、マウス、ラットなど9種類の動物を短時間で簡単に判定できる製品です。解析結果が目視で簡単に判定でき、時間やコストの低減が図れる“ジーン・フィールド”シリーズは、肉種検査、アルコール体質検査に続き今回が第3弾となり、今後も遺伝子解析技術を活用した新製品の開発をさらに進めてまいります。



関係会社: (株)倉敷アイビースクエア

● (株)倉敷アイビースクエアの ● 大規模リニューアルを決定

明治21年の創業時のクラボウ本社工場を改修・再生した(株)倉敷アイビースクエアは、昭和49年の開業以来、明治時代の紡績工場の雰囲気を生かした「蔦のからまる赤レンガのホテル」として、また倉敷美観地区の観光拠点の1つとして多くの皆様にご利用いただいておりますが、このたび、大型宴会場の新設および大浴場・ゲストルームのリニューアルを行うことを決定しました。



(株)倉敷アイビースクエアの正門

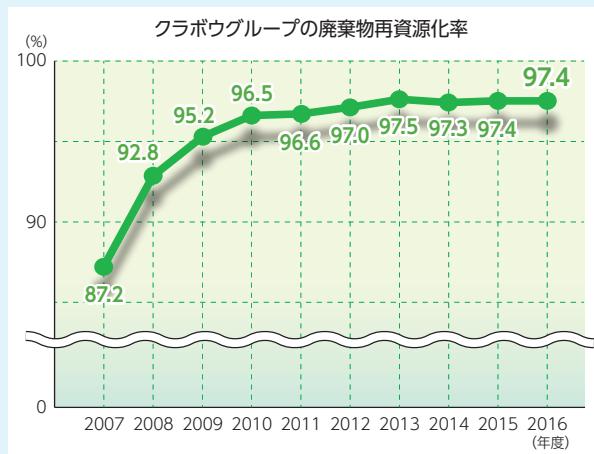
新設の大型宴会場“アイビーエメラルドホール”は、平成30年秋ごろの竣工を予定しており、1,000人規模の立食パーティーを行うことが可能で、各種会議やイベントなどさまざまなニーズに対応できる施設となります。また、大浴場を拡充・新装するとともにゲストルームについては、お客様のニーズにきめ細かく対応できる客室構成とし、内装のグレードアップも順次行う計画です。今回のリニューアルを契機に、倉敷アイビースクエアの魅力さをさらに高め、また地域の皆様からもより一層愛されるホテルを目指してまいります。

C S R の 取 り 組 み

資源の有効活用

クラボウグループは、資源を有効に活用するため、廃棄物の再資源化に努めています。グループ全体の再資源化率は、2016年度も97%を超え、廃棄物の大部分を再資源化しています。また、クラボウでは大阪本社、東京支社、熊本開発センターおよび全8工場でゼロエミッションを達成し、グループ全体では昨年度より3事業所増えて、27事業所がゼロエミッションを達成しました。これからも廃棄物の再資源化に努め、資源循環型社会の実現に貢献してまいります。

※クラボウグループでは、ゼロエミッションの基準を、再資源化率98%以上と定義しています。



クラボウの環境に対する取り組みについて、詳しくはホームページ <http://www.kurabo.co.jp/report/index.html> をご覧ください。

当社の株式に関する事項 (平成29年3月31日現在)

- 発行可能株式総数 977,011千株
- 発行済株式の総数 242,939千株
- 株主数 18,885名
- 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社三井住友銀行	11,180	4.93
株式会社みずほ銀行	11,180	4.93
日本生命保険相互会社	9,200	4.05
株式会社中国銀行	7,265	3.20
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	7,246	3.19
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	6,217	2.74
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,673	2.50
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	4,786	2.11
三井住友信託銀行株式会社	4,120	1.81
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	3,883	1.71

(注) ①当社は、自己株式16,315千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
 ②持株比率は自己株式を控除して計算しております。

当社グループの概要 (平成29年3月31日現在)

当社

■創立 明治21年3月9日 ■本店 岡山県倉敷市本町7番1号

■主要な事業所

区分	名称	所在地	
営業所 および 研究所	大阪本社	大阪市中央区	
	東京支社	東京都中央区	
	技術研究所	大阪府寝屋川市	
工場	織維	丸亀工場	香川県丸亀市
		安城工場	愛知県安城市
	化成品	徳島工場	徳島県阿南市
		寝屋川工場	大阪府寝屋川市
		裾野工場	静岡県裾野市
		群馬工場	群馬県伊勢崎市
		鴨方工場	岡山県浅口市
三重工場	三重県津市		

当社グループの従業員の状況

従業員数(前連結会計年度末比増減)(人) 4,642(79)

(注) 従業員数は就業人員であり、上記のほか、臨時社員・パートタイマー1,093人がおります。

当社の重要な子会社の状況

区分	会社名
国内	倉敷機械(株)
	日本ジフィー食品(株)
	(株)クラボウインターナショナル
	倉敷繊維加工(株)
	東名化成(株)
	シーダム(株)
海外	(株)倉敷アイビースクエア
	クラシキ・ド・ブラジル・テキスタイル(有)
	タイ・クラボウ(株)
	(株)倉敷化学工業品有限公司
	広州倉福塑料有限公司

(注) 上記記載の重要な子会社12社を含め、当連結会計年度の連結子会社は25社、持分法適用会社は2社であります。

当社の取締役 (平成29年6月29日現在)

代表取締役 取締役社長	藤田 晴哉	取締役 執行役員	川野 憲志
代表取締役 常務執行役員	北 畠 篤	取締役 常勤監査等委員	岡田 治
代表取締役 常務執行役員	馬場 紀生	社外取締役 監査等委員	宮 二 朗
取締役 執行役員	本 田 勝 英	社外取締役 監査等委員	茂 木 鉄 平
取締役 執行役員	稲 岡 進	社外取締役 監査等委員	新 川 大 祐
取締役 執行役員	藤 井 裕 詞		

(注) 社外取締役(監査等委員)宮二郎、茂木鉄平および新川大祐の3氏は、いずれも当社が定める「社外取締役の独立性に関する基準」の要件を満たしており、また東京証券取引所有価証券上場規程第436条の2に定める独立役員であります。

当社の執行役員 (平成29年6月29日現在)

専務執行役員	佐野 高 司	執行役員	中 村 潔
常務執行役員	藤原 秀 則	執行役員	相 徳 朗 人
常務執行役員	八木 克 眞	執行役員	平 田 政 弘
常務執行役員	西澤 厚 彦	執行役員	中 川 眞 豪
常務執行役員	安 川 洋		

未来への礎として

倉紡記念館は、昭和44年3月、
クラボウの創立80周年の記念事業の一つとして
建設されました。

“歴史を顧みることが、未来への礎”
創業以来クラボウに貫かれている考えが
生んだ記念館です。

倉紡記念館



第1室 | 明治時代
(1888~1912)



第2室 | 大正時代
(1912~1926)



第3室 | 昭和時代
(1926~1945)



第4室 | 昭和・平成時代
(1945~)



第5室 | 年表コーナー

倉紡記念館

倉敷市本町7番1号 (JR倉敷駅より徒歩15分・倉敷アイビースクエア内)
TEL (086) 422-0011 ●公開時間 AM. 9:00~PM. 5:00



倉敷紡績株式会社

<http://www.kurabo.co.jp>

株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 単元株式数 1,000株
- 定時株主総会 毎年6月
- 株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
- 基準日
- 同連絡先
- (1) 定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
- (2) 中間配当金 毎年9月30日 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話 0120-094-777 (通話料無料)
- 公告の方法
- 電子公告の方法により行います。
- 公告掲載URL <http://www.kurabo.co.jp>
- ※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- ※平成23年5月3日に倉敷機械株式会社との株式交換に伴う株式の割当により当社株主となられた株主様のうち、みずほ信託銀行株式会社が口座管理機関となっている特別口座につきましては、平成28年11月29日より、口座管理機関を三菱UFJ信託銀行株式会社に変更しております。